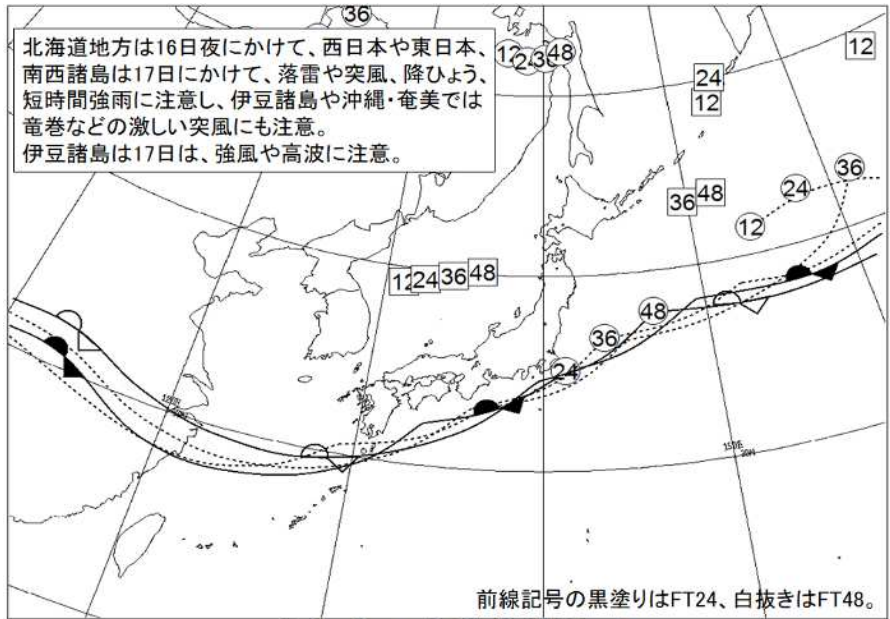


1. 実況上の着目点

- ① 北海道付近の 500hPa5700m 付近に-15℃以下の寒気を伴った寒冷渦があってほとんど停滞 (16日09時の札幌の高層観測では500hPa-16.5℃を観測)。寒冷渦西側の中国東北区の500hPa5760m 付近にはリッジがあってゆっくりと東進。
- ② 華中の 500hPa5820m 付近にトラフがあって東進。
- ③ 梅雨前線が東シナ海から種子島・屋久島付近を通って日本の南にのびている。前線に向かって 850hPa θ e345K 以上の下層暖湿気が流入、南西諸島では雷を伴った激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は16日夜にかけて北海道地方に停滞するが、17日はトラフとなって千島近海に進む。北海道地方では16日夜にかけて、寒冷渦に伴って上空500hPaに-15℃以下の寒気が流入、日中の昇温の影響も加わって大気の状態が不安定となる。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ② 1項①のリッジは18日朝にかけて中国東北区をゆっくりと東進。東アジアでは18日にかけて500hPaは逆位相となり、西日本～東日本では500hPaは谷場となって西南西の流れが続き、500hPa5820m付近の正渦度移流が続く。また1項②のトラフは逆位相の中、動きが遅くなり、東シナ海をゆっくり東進して17日夜に西日本に進み、その後、不明瞭となる。

梅雨前線は18日朝にかけて九州南部～東日本の太平洋側に停滞、500hPa5820m付近の正渦度移流や1項②のトラフに伴って、前線上のキンクや低気圧が東シナ海、日本の南～日本の東を東北東～北東進していく。九州南部や伊豆諸島は17日にかけて、850hPa θ e345K 以上の下層暖湿気が流入して大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨の降る所がある。また、前線北側の東日本や西日本の太平洋側でも湿った空気が流入、1項②のトラフや500hPa5820m付近の正渦度移流、日中の昇温の影響も加わって17日午後を中心に大気の状態が不安定となる。西日本や東日本は17日にかけて、落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意し、伊豆諸島は竜巻などの激しい突風、強風や高波にも注意。

- ③ 沖縄・奄美では17日にかけて、850hPaで大陸からの西南西の風と沖縄の南からの南西風が合流する場が続き、高気圧の縁を回る850hPa θ e345K 以上の下層暖湿気が流入して大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。落雷や竜巻などの激しい突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：伊豆諸島150、奄美100mm。2項の短時間強雨に注意。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。